

神戸女学院大学

# ポリシー

(大学)

2026 年度

神戸女学院大学 学長室

# 目次

大学.....	1
ミッションステートメント.....	1
ディプロマ・ポリシー.....	1
カリキュラム・ポリシー.....	2
アドミッション・ポリシー.....	2
国際学部.....	3
ディプロマ・ポリシー.....	3
カリキュラム・ポリシー.....	3
アドミッション・ポリシー.....	4
英語学科.....	5
ディプロマ・ポリシー.....	5
カリキュラム・ポリシー.....	5
アドミッション・ポリシー.....	6
グローバル・スタディーズ学科.....	7
ディプロマ・ポリシー.....	7
カリキュラム・ポリシー.....	7
アドミッション・ポリシー.....	8
文学部（英文学科、総合文化学科）.....	9
ディプロマ・ポリシー.....	9
カリキュラム・ポリシー.....	9
アドミッション・ポリシー.....	10
英文学科.....	11
ディプロマ・ポリシー.....	11
カリキュラム・ポリシー.....	11
アドミッション・ポリシー.....	12
総合文化学科.....	13
ディプロマ・ポリシー.....	13
カリキュラム・ポリシー.....	13
アドミッション・ポリシー.....	13
音楽学部 音楽学科.....	15
ディプロマ・ポリシー.....	15
カリキュラム・ポリシー.....	15
アドミッション・ポリシー.....	16
心理学部.....	17

ディプロマ・ポリシー.....	17
カリキュラム・ポリシー.....	17
アドミッション・ポリシー.....	17
<b>心理学科.....</b>	<b>18</b>
ディプロマ・ポリシー.....	18
カリキュラム・ポリシー.....	18
アドミッション・ポリシー.....	19
<b>生命環境学科.....</b>	<b>20</b>
ディプロマ・ポリシー.....	20
カリキュラム・ポリシー.....	20
アドミッション・ポリシー.....	21
<b>人間科学部（心理・行動科学科、環境・バイオサイエンス学科）.....</b>	<b>22</b>
ディプロマ・ポリシー.....	22
カリキュラム・ポリシー.....	22
アドミッション・ポリシー.....	23
<b>心理・行動科学科.....</b>	<b>24</b>
ディプロマ・ポリシー.....	24
カリキュラム・ポリシー.....	24
アドミッション・ポリシー.....	25
<b>環境・バイオサイエンス学科.....</b>	<b>26</b>
ディプロマ・ポリシー.....	26
カリキュラム・ポリシー.....	26
アドミッション・ポリシー.....	27

# 大学

## ミッションステートメント

神戸女学院大学は、学ぶ者と働く者が共に学院標語「愛神愛隣」に基づくキリスト教の精神を分かち合い、時代の潮流に流されることなく、置かれた場で、利害を超え、自らの役割を感知し、果たし、人にとって真に大切なものを見分ける、共感性の高い人格への成長を目指します。

## ディプロマ・ポリシー

神戸女学院大学は、キリスト教主義の伝統ある女性高等教育機関として、学院標語「愛神愛隣」に基づいて、置かれた場で時代の潮流に流されることなく利害を超えて自らの役割を果たす、他者と深く共感する人格を養成します。

そのために、カリキュラム・ポリシーにおいて定めた「キリスト教主義」、「国際理解の精神」、「リベラルアーツ教育」の教育の三つの柱を具現化すべく、以下の七つの力を備えた人格を養成するように努め、それを修得し卒業要件を満たした人に対して学士の学位を授与します。

### 1. 愛と奉仕の精神

自分を深め、人に尽くす大切さを理解する。隣人を愛し、隣人に共感して行動することができる。社会の一員としての高い倫理的意識を備え、より善い社会の実現のために働くことができる。

### 2. 豊かな感受性

知的、感情的、美的なものに対する感性や理解を高めるとともに、社会性・社会的関心を高くもち、文化・社会・自然の多様性を理解し、受容することができる。

### 3. 論理的思考力

論理的に自分の考えを構築して表現できる。プレゼン等を通して、客観的で説得力ある意見を述べることができる。

### 4. コミュニケーション力

異なる見解や他者の立場を尊重し、対話を重んじて自分の意見を伝えることができる。自分のリーダーシップや調和力を高め、チームワークを向上させることができる。

### 5. 専門的知識と技能

専門的な考え方、見方ができる、専門的なパフォーマンスができる。複数分野の専門知識とあわせて、多角的に問題を発見し、分析し、解決することができる。

### 6. 創造力と企画力

偏見から自由で、柔軟な思考ができる。新たな発想を持ち、展開していくことができる。

### 7. 主体的に学び続ける力

自立と自律の心構えをもち、自己を管理して、上達目標を定めて粘り強く学ぶことができる。資料収集・読解を自ら進んで行うことができる。

上記の能力を修得したことを示すため、卒業研究・演奏等については学内発表することが求められます。

## カリキュラム・ポリシー

神戸女学院大学は、ディプロマ・ポリシーに定めた人格を養成するために、「キリスト教主義」、「国際理解の精神」、「リベラルアーツ教育」を教育の三つの柱に据え、以下の方針に基づいた科目編成による教育課程を編成します。

1. 学生が専門的知識を習得する各分野の専門科目を体系的に編成すること（「メジャー科目」）
2. 学生が他学科の専門科目を体系的に学べるようカリキュラムを編成すること（「オープン科目」「マイナー科目」）
3. 様々な分野の学生同士の交流、学外の人々との協力を促す科目を設定すること（「クローバーゼミ」、「プロジェクト科目」など）
4. 国際理解や国際協調のために必要な英語やその他の外国語の科目を設定すること（英語やその他の外国語科目）
5. 社会に貢献するために必要なキリスト教精神を育み、心身を鍛え、言語・数理・情報を駆使する能力を養成する科目を設定すること（「コア科目」）
6. 単なる職業上のキャリアにとどまらず、「人が生涯を通じて行う仕事の総体」としてキャリアを理解し、その意味でのキャリア形成に役立つ科目を設定すること（キャリア系科目）

上記方針に基づく科目編成においては、体系性・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。

## アドミッション・ポリシー

本学のミッションステートメントとカリキュラム・ポリシー、及び希望する学科・専攻の教育目標・教育内容をよく理解し、大学における教育課程を履修するために必要な、高等学校卒業に相当する学力の 3 要素（基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）を備えた人を受け入れます。とりわけ、以下にあてはまる人を歓迎します。

1. 自分で決めた目標に対して自ら行動したい人
2. 専門的知識を深く学びたい人
3. 現代社会の課題に強い関心があり、複合的な視点から取り組みたい人
4. 多種多様な人とコミュニケーションし、世の人々のために尽したい人

本学の教育を深く理解し、主体的に学びたい人、多様な才能と経験を持つ人、基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力を備えた人を受け入れるために多様な入学試験を実施します。

# 国際学部

## ディプロマ・ポリシー

国際学部では、本学のミッションステートメントとディプロマ・ポリシーのもと、神戸女学院の教育の3つの柱をふまえ、特にそのひとつである「国際理解の精神」に基づいて、他者との共生を志し、英語力を活かして、豊かな感性と深い批判的思考力をもって、地域社会や国際社会に貢献できる人材を養成するため、次の能力の修得を教育研究上の目的とします。

1. 言語・文化・文学・社会・経済・政治に関わる専門分野の知識と技能を備え、専門分野における問題を理解し解決する力
2. 豊かな教養と広い視野で、文化や社会の諸問題を複合的に捉え、ものごとの本質を見きわめる力
3. 自ら課題を設定し取り組む主体性・創造性と、それを的確に伝える力
4. 母語および英語の高い運用能力と異文化理解力を備え、多様な背景をもつ他者と共感・共生する力
5. グローバル市民として、またグローバル社会の一員としての高い倫理意識を備え、置かれた場において役割を果たすべく自らを高め、グローバルに発信していく力

### <学位取得の要件>

国際学部では、以上の能力を修得し、その成果を集約した卒業論文・プロジェクトを提出した学生に対して、学士（国際学）の学位を授与します。

## カリキュラム・ポリシー

国際学部では、本学のミッションステートメントとカリキュラム・ポリシーのもと、神戸女学院の教育の3つの柱をふまえ、本学部ディプロマ・ポリシーに定めた能力をもつ人材を養成するため、英語学科とグローバル・スタディーズ学科の2学科をおき、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

1. 多角的で柔軟なものを見方を養成し、英語で受信発信できるよう英語力を強化すること。また、学科、専門領域ごとに体系的な「メジャー科目」を設置し、基礎から応用まで段階的に専門性を高めること。
2. 専門領域の学びによって習得した知識・技能をもとに、主体的に問題を設定・解明し、それを人に伝える能力を養うため、少人数ゼミによる指導をおこない、英語による卒業論文・プロジェクトの作成を課すこと。
3. 実践的な応用力、判断力、行動力を身につけるため、フィールドでの学びや体験型の学びを促進する科目やプログラムを設置すること。
4. 国際理解と国際対話の能力を養うため、「コア科目」と「メジャー科目」を通じて高度の外国語運用能力を養成し、言語文化への理解を深める科目やプログラムを設置すること。
5. 専門的知識と結びついたキャリア形成のため、キャリア意識を高める科目やプログラムを設置すること。
6. キリスト教精神にもとづく人間理解をはぐくみ、グローバル市民に必要とされる素養を培うため、また国際学部の専門分野を学ぶ基礎力をつけるために「コア科目」の履修を課し、広い視野と総合的な判断力の獲得のために「クローバーゼミ」や「オープン科目」の履修を課すこと。
7. 他学部・他学科の学生に向けて、言語・文化・文学・社会・経済・政治に対する多角的かつ国際的な

関心と理解を深めるための「オープン科目」や「マイナープログラム」を設置すること。

## アドミッション・ポリシー

国際学部では、本学のミッションステートメントと本学・本学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーをよく理解し、本学部の教育課程を履修するために必要な基礎学力を備えた人を受け入れます。とりわけ、以下にあてはまる人を歓迎します。

1. 世界の文化や社会の問題に強い関心があり、主体的に関わる志をもつ人
2. 複数の学問分野を学び、事象を多角的に捉える姿勢を身につけた人
3. 高度の言語運用能力と専門知識を身につけて、社会に貢献したい人

# 英語学科

## ディプロマ・ポリシー

英語学科では、国際学部で修得することが期待される能力の具現化として、英語力を活かして知性と感性をバランスよく最大限に発揮し、地域社会、国際社会の場を問わず、責任ある行いができる人材を養成するため、次の能力の修得を教育研究上の目的とします。

1. 英語を用いて複数の専門分野を学ぶことで、異なる文化や意見をもつ人々への共感性を高め、現代社会の諸問題や、それらを引き起こす人間の本質について深く理解する力
2. グローバル市民として人権を尊重し、社会、言語、文化に関する様々な意見から自らの意見を紡ぎ出し、それを論理的に発信できる高度な英語力
3. 英語を駆使して選び出した質のよい情報を基に、現実を多角的にとらえ、人々と共に柔軟に問題解決をし、最善の選択を行うことができる力
4. 英語でキャリア構築（教職、通訳、留学、大学院進学、企業勤務など）を可能とする「使える英語」を身に付け、自らの人生を切り拓く力
5. 少人数で英語による質の高い教育を受けることで身に付けた深い知見と独創性を基に社会の流れを変える（Change Maker）力

### <学位取得の要件>

以上の能力を修得し、その成果を集約した卒業論文・プロジェクトを含む卒業要件を満たす学生に対して、学位を授与します。卒業論文は担当教員が審査し、学内公開の卒業論文発表会において学修成果の確認を行います。

## カリキュラム・ポリシー

英語学科では、本学科ディプロマ・ポリシーに定めた能力をもつ人材を専門科目教育をとおして養成するため、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

1. 英語で多様な専門分野の基礎知識を習得できるように、次の a～e の 5 つの柱（a. 英米文学文化、b. 言語科学、c. 通訳・翻訳・コミュニケーション、d. 英語スキルおよび中学校・高等学校英語教員資格取得、e. 留学できるレベルの英語を使った体験学習）を基本とした科目を設置します。本学科内の「メジャー科目」は原則、英語で授業を行い、学生は初年次から入門科目をすべて履修します。
2. 英語 4 技能を段階的、効果的に高めるため、初年次の英語必修科目「英語 I」、「英語 II」は 14 名までの少人数クラスとします。論理的で明確な英語発信能力養成のため、英語プレゼンテーションや英語エッセイ・ライティングを学ぶ必修科目「英語 III」、選択科目「上級英作文」を 2 年次に設置します。また学生各々の英語学習目標の達成を支援するため、English Proficiency、「通訳・翻訳プログラム」、中学校・高等学校英語教員資格取得のための科目群などを設置します。
3. 自らが選んだテーマに関して問題を発見し、それを指導教員やゼミ仲間との知的対話やリサーチによって解決していく力を培うため、15 名程度を上限とする 2 年間のゼミを 3 年次より設置します。学生はゼミ活動をとおし、英語で 5000 ワード以上の卒業論文・プロジェクトを作成し発表します。

4. 実社会で人々と協力し、創造的な働きを続けられる人間力を鍛えるため、海外インターンシップ、外部講師による学会やシンポジウムの開催、翻訳ワークショップ、字幕翻訳プロジェクト、通訳実地演習、近隣小学校への英語授業のアウトリーチなど、多彩なアクティブ・ラーニング授業を展開します。研究者を目指す学生には、国内外の大学院進学に備えた指導を行います。
5. 本学科「メジャー科目」の履修と並行して、キリスト教精神と、社会貢献に必要な教養を身につけるため、「全学コア科目」や「オープン科目」を履修します。学生は英語学科の専門分野を主専攻（メジャー）としながら、他学科提供の「オープン科目」から一つの分野を一定単位履修することで、その分野を副専攻（マイナー）とすることができます。
6. 他学部、他学科生が高い英語力を用いて、社会、言語、文化に関する多角的知識を身につけられるように、オープン科目群を設置します。

#### <科目体系・番号・カリキュラムマップなど>

上記方針に基づく科目編成においては、体系的・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。

#### アドミッション・ポリシー

英語学科では、本学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーをよく理解し、本学科の教育課程を履修するために必要な基礎学力および英語コミュニケーション能力を備えた人を受け入れます。とりわけ、以下にあてはまる人を歓迎します。

1. 専門性の高い学びの成果を発信することでコミュニケーション能力を高めたい人
2. 教室と社会、国と国、バーチャルとリアル、といったさまざまな垣根を超えて、異なる文化、考えをもつ他者を尊重し、思いやる人間性をもつ人
3. 社会で人々と繋がり、協働していくため、語学力に加え論理的な思考力と表現力を習得したい人
4. 新しい時代の多くの可能性に「英語で」挑戦するため、生涯にわたって自主的に学習できる方法と能力を身につけたい人
5. 英語を使って、自分の人生だけでなく世界や社会を変えたい人（Game Changer）

# グローバル・スタディーズ学科

## ディプロマ・ポリシー

グローバル・スタディーズ学科では、国際学部で修得することが期待される能力の具現化として、多様な背景をもつ人々との協働を可能にする、知識、感覚、実践力を備えた「グローバル市民」を養成するため、次の能力の修得を教育研究上の目的とします。

また卒業論文を含む全課程の被教授言語を英語中心とします。

1. グローバル化が進む現代社会の諸相およびグローバル問題群についての知識と議論を深め、これらと冷静に向き合い判断する力
2. 自らを含む「多様な背景をもつ人びと」の人権を尊重し、「グローバル市民」としての自覚をもった対話（コミュニケーション）力
3. 大学キャンパス、地域社会、国際社会での出会いを通して仲間と共に「グローバル社会」を創造する実践力

### <学位取得の要件>

以上の能力を修得し、その成果を集約した卒業論文・プロジェクトを含む卒業要件を満たす学生に対して、学位を授与します。卒業論文は担当教員が審査し、学内公開の卒業論文発表会において学修成果の確認を行います。

## カリキュラム・ポリシー

グローバル・スタディーズ学科では、本学科ディプロマ・ポリシーに定めた能力をもつ人材を養成するため、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

1. 1年～4年次の課程を、基礎—知識—方法—実践—創造の流れで展開します。  
「基礎」：言語・情報の各リテラシーを確立するとともに、グローバル・スタディーズ概論を学びます。  
「知識」：グローバル化する政治、経済、社会、文化の諸相を理論的枠組みから学び、批判的思考力を習得します。  
「方法」：資料分析、質的調査、量的調査の手法を習得します。  
「実践」：大学キャンパス、地域社会、国際社会での実践的学びを通じて、「グローバル市民」としての自覚と協働する力を養います。具体的には、留学生と国内学生がキャンパスで共に学び、多様な背景をもつ人々が共に暮らす地域社会のモデルを自ら形成します。さらには留学や国内外インターンシップを通じて国際社会と積極的な関わりを持つようになります。実施にあたっては、担当教員指導のもとで履修生が学びの企画から担います。  
「創造」：各自がトピックを設定し、学びを集約したかたちでの卒業論文・卒業プロジェクト（実践報告や制作活動）として発信します。
2. 「グローバル・スタディーズ」の教育内容を明示するために、Cultural Studies と Sustainability Studies の2つの領域によって構成します。各学生は両方の領域をバランスよく学びます。
3. 「国際学部共通教育」として英語4技能の向上を目指します。また通訳・翻訳プログラムの履修が可能

です。

4. 「全学コア科目」と「オープン科目」を含みリベラルアーツ教育を通じて、全人教育による教養と広い視野を身につけます。

<科目体系・番号・カリキュラムマップなど>

上記方針に基づく科目編成においては、体系性・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。

### アドミッション・ポリシー

グローバル・スタディーズ学科では、本学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーをよく理解し、本学科の教育課程を履修するために必要な基礎学力および言語能力（英語・日本語）を備えた人を受け入れます。とりわけ、以下にあてはまる人を歓迎します。

1. 言語、思考、態度において、多様な背景をもつ他者との対話力を習得したい人
2. 将来、グローバル社会に貢献する働きをしたい人
3. 日本の大学での学位取得を目指す留学生

## 文学部（英文学科、総合文化学科）

### ディプロマ・ポリシー

文学部は、他者との共生を志す国際理解の精神に基づき、豊かな感性と深い批判的思考力をもって人間と社会の諸相に向きあい、地域社会や国際社会に貢献できる人格を養成します。

そのような人格に必要な以下の能力を修得し、かつ所定の単位を取得して卒業論文を提出した学生に対して、学士(文学)の学位を授与します。卒業論文は担当教員が審査し、公開の卒業論文発表会が行われます。

1. 人間の精神・言語・文化・社会に関わる専門分野の体系的な知識と技能を備え、専門分野における問題を理解し解決する力
2. 豊かな教養と広い視野、複数分野を組み合わせる思考方法を備えることで、文化や社会の諸問題を複合的に捉えて、ものごとの本質を見きわめる力
3. 自ら課題を設定し取り組む主体性・創造性と、それを的確に伝える力
4. 母語および外国語の高い運用能力と異文化理解力を備え、多様な背景をもつ他者と共感・共生する力
5. 社会の一員としての高い倫理意識を備え、置かれた場において役割を果たすべく自らを高めていく力

### カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに定めた能力をもつ人格を養成するため、文学部に英文学科・総合文化学科の2学科をおき、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

1. 学科、コース、専攻科目群ごとに体系的な「メジャー科目」を設置し、基礎から応用まで段階的に専門性を高めること。また多角的で柔軟なものを見方を養成し、深い人間理解を導くため、学科内の複数領域の「メジャー科目」の履修を課すこと
2. 専門領域の学びによって習得した知識・技能をもとに、主体的に問題を設定・解明し、それを人に伝える能力を養うため、少人数ゼミによる指導をおこない、英文学科では英語、総合文化学科では日本語による卒業論文の作成を課すこと
3. 実践的な応用力、判断力、行動力を身につけるため、フィールドでの学びや体験型の学びを促進する科目やプログラムを設置すること
4. 国際理解と国際対話の能力を養うため、「コア科目」と「メジャー科目」を通じて高度の外国語運用能力を養成し、言語文化への理解を深める科目やプログラムを設置すること
5. 専門的知識と結びついたキャリア形成のために、教職課程、日本語教員養成課程、資格取得のための科目群を設置すること。また、キャリア意識を高める科目やプログラムを設置すること
6. キリスト教精神にもとづく人間理解をはぐくみ、自立した市民に必要なとされる素養をつちかうため、また文学部の専門分野を学ぶ基礎力をつけるために「コア科目」の履修を、広い視野と総合的な判断力の獲得のために「クローバーゼミ」、「オープン科目」の履修を課すこと
7. 他学部・他学科の学生に向けて、人間の精神・言語・文化・社会に対する多角的な関心と理解を深めるために、「オープン科目」や「マイナープログラム」を設置すること

上記方針に基づく科目編成においては、体系性・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目

内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、学科ごとに教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。

### アドミッション・ポリシー

文学部は、本学のミッションステートメントと本学・本学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーをよく理解し、本学部の教育課程を履修するために必要な基礎学力を備えた人を受け入れます。特に以下のような人を歓迎します。

1. 世界の文化や社会の問題に強い関心があり、主体的に関わる志をもつ人
2. 複数の学問分野を学び、事象を多角的に捉える姿勢を身につけたい人
3. 高度の言語運用能力と専門知識を身につけて、社会に貢献したい人

※英文学科のみ 2023 年度より募集を停止しています。

# 英文学科

## ディプロマ・ポリシー

大学 3 ポリシーのもと英文学科では英語力を活かして知性と感性をバランスよく最大限に発揮し、地域社会、国際社会の場を問わず、責任ある行いができる人を養成します。そのために必要な以下の能力を修得し、卒業論文提出を含む卒業要件を満たした人に対して学士(文学)の学位を授与します。卒業論文は担当教員が審査し、公開の卒業論文発表会が行われます。

1. 英語を用いて複数の専門分野を学ぶことで、異なる文化や意見を持つ人々への共感性を高め、現代社会の諸問題や、それらを引き起こす人間の本質について深く理解する力
2. グローバル市民として人権を尊重し、社会、言語、文化に関する様々な意見から自らの意見を紡ぎ出し、それを論理的に発信できる高度な英語力
3. 英語を駆使して選び出した質のよい情報を基に、現実を多角的にとらえ、人々と共に柔軟に問題解決できる力
4. 知的好奇心を持ち、未知のことを学ぶ方法を身に付け、生涯成長していく力

## カリキュラム・ポリシー

大学 3 ポリシーのもと英文学科では、本学科ディプロマ・ポリシーに定めた能力を、専門科目教育をとおして養成していくため、以下のような方針でカリキュラムを編成します。

1. 英文学科では、英語で多様な専門分野の基礎知識を修得できるように、3つの専門コース(グローバル・スタディーズコース、言語コミュニケーションコース、英米文学文化コース)を設置し、各コースの「メジャー科目」は原則、英語で授業を行います。学生は初年次から3コースの入門科目をすべて履修します。
2. 英語 4 技能を集中して段階的に高めるため、初年次の英語必修科目「英語 I」、「英語 II」は14名までの少人数クラスとします。論理的で明確な英語発信能力の養成のため、2年次に英語プレゼンテーションや英語エッセイ・ライティングを学ぶ、必修科目「英語 III」や選択科目「上級英作文」を設置します。また学生各々の英語学習目標の達成を支援するため、英語検定試験準備科目群、「通訳・翻訳プログラム」、中学・高校英語教員資格取得のための科目群等を設置します。
3. 自らが選んだテーマに関して問題を発見し、それを指導教員やゼミ仲間との知的対話やリサーチによって解決していく力を培うため、15名程度を上限とする2年間ゼミを3年次より設置します。学生はゼミ活動をとおし、英文20枚以上の卒業論文・プロジェクトを作成し発表します。
4. 実社会で人々と協働し、創造的な働きを続けられる人間力を鍛えるために、体験型学習中心のメジャー科目群を設置します。「映像製作」でのビデオ制作、海外フィールド・スタディ、外部講師による学会やシンポジウムの開催、翻訳ワークショップ、通訳実地演習、近隣小学校への英語授業のアウトリーチなど、多彩な学生参加型アクティブ・ラーニング授業を展開します。またキャリア支援のための体験型授業として、「リーダーシップとキャリア・デザイン」を提供します。研究者を目指す学生には、国内外の大学院進学に備えた指導を行います。
5. 英文学科生は上記の「メジャー科目」の履修と並行して、キリスト教精神と、社会貢献に必要な教養を

身につけるために、「全学コア科目」や「オープン科目」を履修します。英文学科生は英文学科の専門分野を主専攻（メジャー）としながら、他学科提供の「オープン科目」から一つの分野を一定単位履修することで、その分野を副専攻（マイナー）とすることができます。

6. 英文学科は、他学部、他学科生が高い英語力を用いて、社会、言語、文化に関する多角的知識を身に付けられるように、オープン科目群を設置します。

上記方針に基づく科目編成においては、体系性・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。

### アドミッション・ポリシー

大学 3 ポリシーのもと英文学科では、本学科ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーをよく理解し、本学科における教育課程を履修するために必要な英語コミュニケーション能力および高等学校卒業相当の学力を備えた人を受け入れます。特に、以下のような人を歓迎します。

1. 自らの目標に向かって、「グローバル・スタディーズ」、「言語コミュニケーション」、「英米文学文化」に関する専門分野の英語での学びに積極的に取り組みながら、英語コミュニケーション能力を高めたい人
2. グローバル、ローカルの両面で、異なる文化、考えをもつ他者を尊敬し、思いやる人間性を持つ人
3. 英語を用いて世界情勢や人々の置かれている状況を理解し、柔軟に対応できる力を養いたい人
4. 社会で人々と繋がり、協働していくために、論理的な思考力と表現力を修得したい人
5. 生涯にわたって、自主的に学習できる方法と能力を身につけたい人

英文学科の教育を深く理解し、本学科で英語力および人間力を磨きたい人を受け入れるために、学校推薦型選抜、推薦入学試験を実施します。また多様な才能と経験をもつ人を受け入れるために、総合型選抜、帰国子女入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験、国際バカロレア入学試験を実施します。国際社会への関心と、確かな英語基礎力、思考力・判断力・表現力を備えた人を広く受け入れるために、一般選抜（前期日程、後期日程）、大学入学共通テストを利用する入学試験（前期日程、後期日程）を実施します。一般選抜（前期日程、後期日程）において英語資格試験利用型を実施します。

※英文学科は 2023 年度より募集を停止しています。

# 総合文化学科

## ディプロマ・ポリシー

大学3ポリシーのもと総合文化学科では、人間、文化、社会を多面的に探求し、主体的に議論し行動することができる知性豊かな学生を育成します。

そのために、以下のような態度・見識・能力を身につけ、かつ所定の単位を取得した学生に学士の学位を授与します。

1. 多様な領域を横断し、現代的な課題に応えるためのリベラルアーツの基本的態度
2. 人間、文化、社会に関する幅広い見識
3. フィールドに出て、現場の状況や人に学ぶ行動力
4. 多様な経験によってもたらされる視野の広がりや、他者を理解するために必要な感受性と対応力
5. 論理的に考え、倫理的に行動することができる人間力

## カリキュラム・ポリシー

大学3ポリシーのもと総合文化学科では、本学科ディプロマ・ポリシーに定めた能力をもつ人を養成するために、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

1. 1年次から4年次までを通じた少人数のゼミによって、学修の基礎としてのリベラルアーツへの態度や議論する力を養う。
2. 幅広い関心に基づく学修を奨励するとともに、個別の関心による課題設定のもとでリベラルアーツとしての自身の学修を設計できるよう、アカデミック・アドバイザーを置き助言を行う。
3. 初年次配当の導入的な講義・演習科目から、3・4年次配当の専門化された多様な科目まで、幅広い領域を適切な段階に分けて配置し、全学科目とあわせて総合的に学修の課程を編成する。
4. 人間、文化、社会に関する多様なアプローチを知り、広く深く探求するための超領域的な科目編成とする。
5. 4年間の学修の集大成として必修の卒業論文を課し、学修の成果を表現する。

上記の科目編成の方針に基づく学びの課程を系統的、かつ一望的に理解できるように、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーの形で明示化し、履修の助けとします。同時に、体系性・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を付与し、学修便覧等に示します。

## アドミッション・ポリシー

大学3ポリシーのもと総合文化学科では、本学のミッションステートメントと本学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーをよく理解し、本学科の教育課程を履修するために必要な基礎学力を備えた人を受け入れます。とりわけ、以下にあてはまる人を歓迎します。

1. 日本と世界の文化や社会に広く関心をもつ人
2. 様々な研究視角・領域から問題に向かう知的好奇心の旺盛な人
3. フィールドでの学びに関心と意欲のある人

## 音楽学部 音楽学科

### ディプロマ・ポリシー

音楽学部では、音楽に関わる深い専門的知識と技術、芸術全般に関する幅広い教養を備え、音楽のもつ共感力を通して他者と関わり、芸術を通して地域社会や国際社会に貢献できる人格を養成します。

音楽学科では、そのような人格に必要な以下の能力を修得し、卒業要件を満たした人に対して学士（音楽）の学位を授与します。

1. 音楽に関わる豊かな感受性と深い専門的知識・技術を備え、その感受性を論理的に説得力ある形で表現する能力
2. 多様な文化・社会に関する教養を備え、芸術作品の背景を理解する能力
3. 音楽が社会で果たす役割を感知し、音楽に関わる多種多様な企画を立ち上げ、その実現に向かって主体的に行動する能力
4. さまざまな共演者や多様な価値観をもつ他者とのコミュニケーション力を備え、演奏・創作やプロジェクトを通じてリーダーシップを発揮することのできる能力
5. 芸術家として高い倫理性を持ち、音楽を通してより良い社会の実現のために活動できる能力
6. ソロリサイタル・卒業プロジェクトにおいて、学習の成果を構成し実演・プレゼンテーションできる能力
7. 卒業演奏・発表において、修得した専門性を公開の場で披露できる能力

### カリキュラム・ポリシー

音楽学部では、本学学部ディプロマ・ポリシーに定めた人格を養成するために、本学教育の三つの柱に基づきつつ芸術分野の専門教育を実践する教育課程を編成します。

音楽学科は、音楽表現専攻と音楽キャリアデザイン専攻の二つの専攻を置き、学生が専門的知識・技能を習得する音楽学科「メジャー科目」を設定します。本学科ディプロマポリシーに定めた能力を備えた人格を養成するため、以下のカリキュラムを編成します。

1. 器楽（ピアノ、オルガン、チェンバロ、弦楽器、管楽器、打楽器、ハープ）、声楽、ミュージック・クリエーションの各専修領域の専門実技を追求する「音楽表現専攻専門科目群」を設定すること。また、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を検証するために、広く公開された場で専門的技能を披露する「ソロリサイタル」「卒業演奏及び卒業作品」という科目を設定すること
2. 音楽教育、音楽ビジネス、生涯教育の各分野に関する幅広い知識と教養を深め、音楽実技を広く学び、音楽の活動を通じたキャリア形成を追求する「音楽キャリアデザイン専攻専門科目群」を設定すること。また、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を検証するために、蓄積した専門性を用いて構成する「卒業プロジェクト」「卒業発表」という科目を設定すること
3. 音楽に関する基礎的理解を深め、音楽文化や芸術全般に関わる幅広い教養を身につける「音楽基礎科目群」「アンサンブル科目群」「選択科目群」を編成すること。また、他学科学生に対しては「オープン科

目」「マイナー科目」を設定すること

4. 音楽に関わる多種多様な企画を立ち上げ実現し、コミュニケーション力とリーダーシップを育む「プロジェクト科目群」を編成し、「音楽インターンシップ」「イベント企画制作」「リベラルアーツ」「音楽活動ポートフォリオ」という科目を設定すること
5. 多種多様な音楽業界や音楽に関わる職種で活躍できる専門性を体系的に身につける「音楽キャリアプログラム」を編成すること
6. 所定の教育課程とは別に、専門領域とは異なる音楽実技を学ぶ「選択実技科目群」を編成し、「選択副科実技」「選択第二専門実技」という科目を設定すること

上記方針に基づく科目編成においては、体系性・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目 などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。

### アドミッション・ポリシー

音楽学部は、本学部のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーをよく理解し、本学部における教育課程を履修するために必要な、高等学校卒業に相当する基礎的な学力を備え、音楽の専門的能力や経験、意欲を持つ人を受け入れます。

音楽学科は、音楽表現専攻と音楽キャリアデザイン専攻の二つの専攻を置き、それぞれの教育課程を履修するために必要な基礎力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性)を備えた人、音楽の専門的能力や経験、意欲を持つ人を受け入れます。特に、以下にあてはまる人を歓迎します。

1. 音楽分野における自分の目標を持ち、積極的に学びたい人
2. 音楽分野における専門的知識や技能を深く学びたい人
3. 音楽を通して社会と繋がりを持ち、複合的な視点を持って地域社会や国際社会の芸術文化に貢献したい人

# 心理学部

## ディプロマ・ポリシー

心理学部では、本学のミッションステートメントとディプロマ・ポリシーのもと、神戸女学院の教育の3つの柱をふまえ、心にかかわる幅広い知識と教養と応用力を身につけて共感性を高め、社会において、自らのあるべき役割を果たせる人格を養成します。

## カリキュラム・ポリシー

心理学部では、本学のミッションステートメントとカリキュラム・ポリシーのもと、神戸女学院の教育の3つの柱をふまえ、本学部ディプロマ・ポリシーに定めた能力をもつ人格を養成するため、心理学科をおき、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

メジャー科目の中に講義や実習や演習を設置し、また心理の支援職や福祉職の専門的な資格取得にかかわる科目群を設置します。

## アドミッション・ポリシー

心理学部では、本学のミッションステートメントと本学・本学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーをよく理解し、本学部の教育課程を履修するために必要な高等学校卒業相当の基礎学力を備えた人を受け入れます。

# 心理学科

## ディプロマ・ポリシー

心理学科では、学部の目的を達成するため、次の能力の修得を教育研究上の目的とします。

1. 心の成り立ちや働きとその多様性について、また心と環境や社会とのかかわりに関する専門的な知識を備え、人間関係や人間と環境や社会とのかかわりを分析・理解し、多様な人々とコミュニケーションしながら共生していく能力
2. 心にかかわる様々な問題やその解決を援助するための専門的な知識・技能を備え、人間関係や社会の問題を捉え、解決していく能力
3. 心理学的な調査・実験・研究を遂行し、発信するための知識・技能を備え、自ら主体的に課題を発見して科学的に探求する能力。またその探求結果を論理的にまとめて発信し、他者と議論できる能力

### <学位取得の要件>

心理学部心理学科では、以上の能力の修得を認める卒業要件として、所定の単位を取得し、卒業論文の審査に合格することを求めます。卒業論文は、公開された卒業論文発表会を行い、担当教員を含む2名の教員が審査します。卒業要件を満たした人には学士（心理学）を授与します。

## カリキュラム・ポリシー

心理学科では、本学科ディプロマ・ポリシーに定めた能力をもつ人格を養成するために、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

1. 心理学の主要な分野（認知心理学、社会心理学、臨床心理学など）と心理学に関連した分野（情報科学、精神医学、精神保健福祉学など）の専門的な知識と技術を体系的に修得するために、「メジャー科目」を設置します。
2. 心理学的な調査・実験・研究を遂行して発信するための技能や、心にかかわる様々な問題の解決を援助する技能を養成するために、複数の実習科目、演習科目を設置します。
3. 心理学で求められる読解力・思考力・論理力・批判力・表現力・コミュニケーション力を養成し、心理学の専門的な知識・技能をもとに、心にかかわる課題を自ら発見してその課題を主体的に探求する実践的な科目として、心理学入門ゼミ、演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究を必修科目として設置します。
4. 専門的知識を活かしたキャリア形成のために、公認心理師\*、臨床心理士\*\*、認定心理士、精神保健福祉士の受験資格など、資格取得にかかわる科目群を設置します。  
\*公認心理師の受験資格取得のために必要な実習科目には定員があるため、3年次に選考があります。  
\*\* 臨床心理士の受験資格取得のためには大学院進学が必要です。
5. 学問的な基礎能力を身につけるため、全学設置の「コア科目」を、また幅広い教養を身につけるため、全学および他学科の設置する「オープン科目」をカリキュラムに含めます。
6. 他学科学生の心理学的な教養に資するため、「メジャー科目」の中から「オープン科目」を設置します。

### <科目体系・番号・カリキュラムマップなど>

上記方針に基づく科目編成においては、体系性・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。

## アドミッション・ポリシー

心理学科では、本学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーをよく理解し、本学科の教育課程を履修するために必要な基礎学力を備えた人を受け入れます。とりわけ、以下にあてはまる人を歓迎します。

1. 心理学の専門的知識を深く学びたい人
2. 心にかかわる様々な問題に強い関心があり、それらの問題に主体的に取り組みたい人
3. 人間というものに関心があり、人間を様々な視点から総体的に捉えて探求したい人
4. 人の多様性の理解をふまえて他者とコミュニケーションし、より良い人間関係を構築したい人

# 生命環境学科

## ディプロマ・ポリシー

本大学教育の三つの柱（キリスト教主義、国際理解の精神、リベラルアーツ教育）のもと、生命環境学部では、自然と人間とが共生できる持続可能な社会を築くために生命現象を科学的にとらえ、ジェンダー平等をはじめ多様な人々の豊かな生活の維持・増進に貢献することを目標に、考え、行動する人材を育成します。

1. リベラルアーツ教育による幅広い教養とともに、データサイエンスに基づくデータの適切な処理・分析能力と、持続可能性科学、環境科学、生態学、建築学、細胞生物学、食品科学、健康科学、情報科学などの専門的知識を身につけて、地球生物圏を体系的に理解することができる能力
2. 実習、演習、卒業研究等をとおして、高度な専門知識と技術を修得し、環境や生命に関する現代の諸課題に実証的に取り組み、持続可能な社会の構築のための解決策を見いだす問題発見能力や研究能力
3. 上記のような教育・研究で得られた成果を次世代や社会に継承・還元するための、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力および教育力

### <学位取得の要件>

生命環境学部生命環境学科では、以上の能力の修得を認める卒業要件として、所定の単位を取得し、卒業論文を提出した学生に対して卒業を認定します。卒業論文は担当教員が審査し、公開の卒業研究発表会が行われます。卒業要件を満たした人には学士（生命環境学）を授与します。

## カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに定めた能力を持つ人を養成するために、次のような方針に基づいて、カリキュラムを編成しています。教育の三つの柱のもと、生命環境学部の専門教育課程では、データサイエンスを用いたデータの基礎的な処理および分析について学びながら、「環境科学」「生命科学」「情報科学」「サイエンスコミュニケーション」の4つの学びの分野が相互に連携することで、学部の教育目標に向かって知識と技術の涵養をはかります。そのために、カリキュラムは持続可能性科学を核とし、自然科学の基礎を幅広く学ぶ導入教育から、自身の興味や関心に沿って選択して深く取り組む専門教育に至るまで、段階的に専門知識が習得できるよう構成されています。

1. 自然科学の様々な学びの分野に応用する素地を育てるために、データサイエンス（Data science）の基礎的な知識や考え方を学ぶ。統計学を基盤とし、自然科学におけるデータサイエンスの応用事例を交えた授業を通じて、基本的なデータの処理や分析能力を身につけるとともに、多様な学問分野への応用の仕方について習得する。
2. 「環境科学」(Environmental science) では、持続可能な社会の構築のための、主に自然環境の分野について学ぶ。双方向的な授業を通して環境に関する知識を構築し、海や川の水質保全、生物多様性、環境アセスメント、様々な生態系が構築する景観の特性、環境に調和した建築デザイン、自然環境や歴史的な建築物の保全など、人と自然との理想的な在り方について、フィールドワークや実験・実習を通して実証的に探る。
3. 「生命科学」(Bioscience) では、持続可能な社会の構築のための、主に生活習慣と疾患、健康維持・増進と食べ物の関係、科学的解析技術革新の分野について学習する。身体の構造や営み、食と健康の関係などについて基礎から学び、身の回りにある課題を、ヒト試験、細胞や遺伝子などを使った生化学的、

分子生物学的な実験手法により解明する力を習得する。

4. 「情報科学」(Information science)では、持続可能な社会の構築を目的に、情報システムを活用した様々な課題解決のための手法を学習する。情報通信技術(Information and communication technology)を利用した自然環境や生命現象に関わるデータの収集や分析方法、プログラミングなどを学び、社会に出ても役立つ幅広い知識やスキルを修得する。
5. 「サイエンスコミュニケーション」(Science communication)では、持続可能な社会構築に貢献できる人材を育成するための科学教育について学習する。科学的な知識を元に一般市民に科学を分かりやすく伝え、科学と社会をつなげるための知識とスキルを養う。さらに、理科教育においては、中学校および高等学校の理科教員を目指して、理科に関する専門性の習得を目指すだけでなく、理科の魅力を生徒に伝える手法を学習する。
6. 「環境科学」「生命科学」「情報科学」「サイエンスコミュニケーション」の4つの学びの分野の授業を段階的に4年間で学べるよう、学科 Basic、学科 Core、学科 Advance を設置する。
7. 生命環境学部では「メジャー科目」に加えて、キリスト教精神やジェンダー学など社会に貢献するために必要な教養を身につけるために「コア科目」を履修することができる。また、他学科提供の「オープン科目」や「マイナープログラム」を履修することで、科学に対する多角的な関心と理解を深めることができる。
8. 他学科生の自然と環境に関する教養に資するよう「メジャー科目」の中から「オープン科目」を設置する。またさらに学修を深めたい学生のために「マイナープログラム」を設ける。

## アドミッション・ポリシー

本学のミッションステートメント※を自然科学の領域で実現するために、生命環境学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーをよく理解し、地球環境から生命現象までの幅広い自然科学の視点で、人間と自然とが共生できる持続可能な社会を築くことに意欲的に取り組む人を受け入れます。

1. 自然環境や生物多様性の保全、食の安全と人の健康、化学物質の生物への影響、人と自然との関係性などに深い関心を持ち、データサイエンスを活用しながらそれらに関する実験やフィールドワーク、研究に意欲的に取り組める人
2. 学習成果を社会に還元するために、企業や公的機関の研究者・技術者、中学校・高等学校の理科教員、歴史的な建物の保全や環境配慮設計を行うことができる建築士、NPO の活動家などを目指す人

### ※神戸女学院大学ミッションステートメント

神戸女学院大学は、学ぶ者と働く者が共に学院標語「愛神愛隣」に基づくキリスト教の精神を分かち合い、時代の潮流に流されることなく、置かれた場で、利害を超え、自らの役割を感知し、果たし、人にとって真に大切なものを見分ける、共感性の高い人格への成長を目指します。

# 人間科学部（心理・行動科学科、環境・バイオサイエンス学科）

## ディプロマ・ポリシー

大学3ポリシーのもと人間科学部では、人間やそれを取り巻く自然や環境に対して、深い専門的知識、技能を有し、実証的論理力を持ちつつも感受性豊かに、多様な文化的背景を持つ人々ともコミュニケーションができる人格を養成します。

そのような人格に必要な以下の能力を修得し、卒業論文を提出して、教授会で承認された人に対して学士の学位を授与します。

1. 人間の心と身体、社会や人間を取り巻く自然、環境、その成り立ちや働き、その多様性について専門的知識を幅広く備え、豊かな感受性で、多面的視点から人間や環境を理解する能力
2. 人間やそれを取り巻く自然や環境を対象に、主体的に課題を見つけて研究計画を立て、データを分析し考察することで培われる科学的、実証的に課題を探究する能力
3. 「愛神愛隣」の精神に基づいて、多様な文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができる能力
4. 卒業研究等で得られた成果を、よりよい社会の実現のために、学会、卒業論文発表会等で発信、討論することができる能力

## カリキュラム・ポリシー

人間科学部は、心理・行動科学科と環境・バイオサイエンス学科の2つの学科を置き、それぞれの専門教育課程において高度な専門的知識と技術を修得できるようにする一方で、互いに異なる専門領域の学びを身につけ、幅広い視野のもとで人間科学を修めることをめざします。そして、ディプロマ・ポリシーに定めた能力を持つ人を養成するために、以下の方針に基づき、カリキュラムを編成します。

1. 人間と人間をとりまく社会や自然を理解し、持続可能な社会の実現（SDGs）を推進するために、一つの専門のみに偏らない広い視野と基礎となる知の体系に基づいた科学的な考え方を修得します。この目的のため、お互いの「メジャー科目」の中に、その目的にふさわしい科目を設けます。
2. 2つの学科が対象とする領域の専門的知識と技術を身につけるため、導入的な科目から基礎的な科目を経て、専門性の高い科目にいたるまで、体系的に「メジャー科目」を修得します。
3. 各学科の専門的知識とともに、幅広い知識を統合し、新たな考えを生み出し発信していくための基礎力を養う「クローバーゼミ」等の「コア科目」、広い視野を獲得するための「オープン科目」を学びます。
4. それぞれの領域の知識や技術を体得し、科学的、実証的にさらに主体的な学びを押し進めるため、「心理学実験」、「心理的アセスメント」、「心理学的支援法」、「心理演習」、「環境科学実習」、「生命の科学実習」等の実習や演習等、実験、調査を伴う科目を多く設けます。
5. 人間と社会、人間と自然の関係を考究し、自律的、積極的にイベント等を企画、実践し地域社会の中で自分たちの役割を果たせる力を養う、「地域創りリーダー養成プログラム」など、学外の人たちとの協働を促す実践的な科目群を設けます。
6. 国際理解や多様な背景を持つ人たちとのコミュニケーション力を培うために専門領域に関する英語の科目「心理行動科学文献講読」、「外国書講読」を設け、本学部生にふさわしい英語の基礎力と専門分野

での応用的英語力を身につけます。

- 人間と人間をとりまく社会や自然とのより良い関係を築くことをめざす人を養成し、そのキャリア形成を支援するため、公認心理師・精神保健福祉士など受験資格や理科教員の資格取得に向けた科目群を設けます。
- 他学部学生の間やそれを取り巻く自然や環境に対する教養に資するため、「メジャー科目」の中に「オープン科目」を設けます。またさらに学修を深めたい学生のために「マイナープログラム」を設置します。

上記方針に基づく科目編成においては、体系的・系統性の理解を促すため、各学科ごとに学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示しています。

### アドミッション・ポリシー

人間科学部のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーをよく理解し、本学部のそれぞれの学科の教育課程を履修するために必要な基礎学力を備えた人を受け入れます。人間と人間をとりまく社会や自然について科学的方法、合理的な精神で理解することをめざし、人間と人間をとりまく社会や自然とのより良い関係を築くことをめざす人を歓迎します。

- 各専門分野の到達目標を理解し、その目標に向けて自ら行動する人
- 人間とそれを取り巻く自然や環境について深く学びたい人
- 地域との協働を通して自らを高めるとともに、その成果を地域に還元・貢献できる人
- 愛神愛隣の精神に基づき多種多様な人たちとのコミュニケーションを通して、よりよい社会の実現に向け、献身的に行動する人

本学部の教育を深く理解し、主体的に学びたい人を受け入れるために、学校推薦型選抜、推薦入学試験を実施します。多様な才能と経験を持つ人を受け入れるために、総合型選抜、帰国子女入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験、国際バカロレア入学試験を実施します。基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力を備えた人を広く受け入れるために、一般選抜、大学入学共通テストを利用する入学試験を実施します。

※人間科学部は心理・行動科学科が2023年度、環境・バイオサイエンス学科が2024年度に募集を停止しています。

## 心理・行動科学科

### ディプロマ・ポリシー

心理・行動科学科では、本学のミッションステートメントに謳うキリスト教の精神に基づき、心にかかわる幅広い知識と教養と応用力を身につけて共感性を高め、社会において、自らのあるべき役割を果たせる人格を養成します。そのような人格に必要な以下の能力を修得し、卒業要件を満たした人に対して学士の学位を授与します。

1. 心の成り立ちや働きとその多様性について、また心と環境や社会とのかかわりに関する専門的な知識を備え、人間関係や人間と環境や社会とのかかわりを分析・理解し、多様な人々とコミュニケーションしながら共生していく能力
2. 心にかかわる様々な問題やその解決を援助するための専門的な知識・技能を備え、人間関係や社会の問題を捉え、解決していく能力
3. 心理学的な調査・実験・研究を遂行し、発信するための知識・技能を備え、自ら主体的に課題を発見して科学的に探求する能力。またその探求結果を論理的にまとめて発信し、他者と議論できる能力

心理・行動科学科では、以上の能力の修得を認める卒業要件として、所定の単位を修得し、卒業論文の審査に合格することを求めます。卒業論文は、公開された卒業論文発表会を行い、担当教員を含む2名の教員が審査します。

### カリキュラム・ポリシー

心理・行動科学科は、ディプロマ・ポリシーに定めた能力を持つ人を養成するために、以下の方針に基づいて、カリキュラムを編成します。

1. 心理学の主要な分野（認知心理学、社会心理学、臨床心理学など）と心理学に関連した分野（情報科学、精神医学、精神保健福祉学など）の専門的な知識と技術を体系的に修得するために、「メジャー科目」を設置します。
2. 自然環境を含む多様な環境における人間を様々な角度から捉え、人間を総体的に理解するために、「メジャー科目」の中に環境・バイオサイエンス学科と共通の科目群を設置します。
3. 心理学的な調査・実験・研究を遂行して発信するための技能や、心にかかわる様々な問題の解決を援助する技能を養成するために、複数の実習科目、演習科目を設置します。
4. 心理学で求められる読解力・思考力・論理力・批判力・表現力・コミュニケーション力を養成し、心理学の専門的な知識・技能をもとに、心にかかわる課題を自ら発見してその課題を主体的に探求する実践的な科目として、心理学入門ゼミ、演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究を必修科目として設置します。
5. 専門的知識を活かしたキャリア形成のために、公認心理師\*、臨床心理士\*\*、認定心理士、精神保健福祉士の受験資格など、資格取得にかかわる科目群を設置します。  
\*公認心理師の受験資格取得のために必要な実習科目には定員があるため、3年次に選考があります。  
\*\* 臨床心理士の受験資格取得のためには大学院進学が必要です。
6. 学問的な基礎能力を身につけるため、全学設置の「コア科目」を、また幅広い教養を身につけるため、

全学および他学科の設置する「オープン科目」をカリキュラムに含めます。

7. 他学科学生の心理学的な教養に資するため、「メジャー科目」の中から「オープン科目」を設置します。

上記方針に基づく科目編成においては、体系性・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。

## アドミッション・ポリシー

心理・行動科学科は、本学のミッションステートメントと本学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーをよく理解し、大学における教育課程を履修するために必要な高等学校卒業相当の基礎学力を備えた人を受け入れます。とりわけ、以下にあてはまる人を歓迎します。

1. 心理学の専門的知識を深く学びたい人
2. 心にかかわる様々な問題に強い関心があり、それらの問題に主体的に取り組みたい人
3. 人間というものに関心があり、人間を様々な視点から総体的に捉えて探求したい人
4. 人の多様性の理解をふまえて他者とコミュニケーションし、より良い人間関係を構築したい人

本学科の教育を深く理解し、主体的に学びたい人を受け入れるために、学校推薦型選抜、推薦入学試験を実施します。多様な才能と経験を持つ人を受け入れるために、総合型選抜、帰国子女入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験、国際バカロレア入学試験を実施します。基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力を備えた人を広く受け入れるために、一般選抜（前期日程、後期日程）、大学入学共通テストを利用する入学試験（前期日程、後期日程）を実施します。

一般選抜（前期日程、後期日程）において英語資格試験利用型を実施します。

※心理・行動科学科は2023年度より募集を停止しています。

## 環境・バイオサイエンス学科

### ディプロマ・ポリシー

大学3ポリシーのもと環境・バイオサイエンス学科では、自然と人間との持続可能な関係を築くことを目標に、考え、行動する人材を育成します。そのために、次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を取得し、卒業論文を提出した学生に対して卒業を認定します。卒業論文は担当教員が審査し、公開の卒業研究発表会が行われます。

1. リベラル・アーツ&サイエンス教育による幅広い教養とともに、環境科学、生態学、細胞生物学、食品科学、健康科学、環境社会学などの専門的知識を身につけて、地球生物圏を体系的に理解することができる能力
2. 実習、演習、卒業研究等をとおして、高度な専門知識と技術を修得し、環境や生命に関する現代の諸課題に実証的に取り組み、解決策を見いだす問題発見能力や研究能力
3. 上記のような教育・研究で得られた成果を次世代や社会に継承・還元するための、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力および教育力

### カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに定めた能力を持つ人を養成するために、次のような方針に基づいて、カリキュラムを編成しています。大学3ポリシーのもと、環境・バイオサイエンス学科の専門教育課程では、「環境・生態領域」「バイオサイエンス領域」「科学教育・情報科学領域」の3領域が相互に連携しながら、学科の教育目標に向かって知識と技術の涵養をはかります。そのために、カリキュラムは自然科学の基礎を学ぶ導入教育から専門教育に至るまで、段階的に専門知識が習得できるよう構成されています。

1. 「環境・生態領域」では、海や川の水質保全、生態系や生物多様性の保全など、人間と自然との持続可能な関係を実証的に探る力を養うため、実験やフィールドワーク科目を設置する。
2. 「バイオサイエンス領域」では、生命科学の今日的課題である食品や生活習慣が健康や老化に及ぼす影響を、細胞や遺伝子レベルで探る能力を得るため、最先端の理論や実験手法を習得する科目を設置する。
3. 「科学教育・情報科学領域」では、科学理論・技術と人の思考・行動との関係性から、科学のおもしろさや有意性・可能性を、社会や次世代の人々に効果的に伝える術を探る能力を習得するため、教育学および社会学の科目を設置する。
4. 「環境・生態領域」「バイオサイエンス領域」「科学教育・情報科学領域」の3領域すべてを段階的に4年間で学べるよう、学科 Basic、学科 Core、学科 Advance を設置する。
5. 環境・バイオサイエンス学科では「メジャー科目」に加えて、キリスト教精神や社会に貢献するために必要な教養を身につけるために「コア科目」を履修することができる。また、他学科提供の「オープン科目」や「マイナープログラム」を履修することで、科学に対する多角的な関心と理解を深めることができる。
6. 他学科生の自然と環境に関する教養に資するよう「メジャー科目」のなかから「オープン科目」を設置する。またさらに学修を深めたい学生のために「マイナープログラム」を設ける。

上記方針に基づく科目編成においては、体系性・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。

## アドミッション・ポリシー

本学のミッションステートメントを自然科学の領域で実現するために、環境・バイオサイエンス学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーをよく理解し、地球環境から生命現象までの幅広い自然科学の視点で、人と自然との持続可能な関係構築に意欲的に取り組む人を受け入れます。

1. 自然環境や生物多様性の保全、食の安全と人の健康、化学物質の生物への影響、人と自然との関係性などに深い関心を持ち、それらに関する実験やフィールドワーク、研究に意欲的に取り組める人
2. 学習成果を社会に還元するために、企業や公的機関の研究者・技術者、中学校・高等学校の理科教員、NPOの活動家などを目指す人

本学科の教育を深く理解し、主体的に学びたい人を受け入れるために、学校推薦型選抜、推薦入学試験を実施します。多様な才能と経験を持つ人を受け入れるために、総合型選抜、帰国子女入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験、国際バカロレア入学試験を実施します。基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力を備えた人を広く受け入れるために、一般選抜、大学入学共通テストを利用する入学試験を実施します。学校推薦型選抜（公募制）および一般選抜において英語資格試験利用型を実施します。

※環境・バイオサイエンス学科は2024年度より募集を停止しています。